

2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年8月5日

上場取引所 東

上場会社名 アルフレッサホールディングス株式会社

コード番号 2784 URL <https://www.alfresa.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 荒川 隆治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務企画部長 (氏名) 佐々木 卓 (TEL) 03-5219-5102

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績(2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	788,960	4.1	5,596	△19.6	6,088	△20.5	2,476	△50.5
2026年3月期第1四半期	758,118	4.9	6,964	4.1	7,655	5.7	5,004	12.9

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 984百万円(△72.3%) 2026年3月期第1四半期 3,555百万円(△52.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	13.85	—
2026年3月期第1四半期	27.53	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	1,509,704	486,328	32.2
2026年3月期	1,507,016	507,903	33.7

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 485,635百万円 2026年3月期 507,357百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	34.00	—	34.00	68.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期(予想)	—	35.00	—	36.00	71.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,542,000	0.8	13,300	△17.9	14,500	△17.1	7,900	△31.4	44.23
通期	3,144,000	1.3	33,900	△6.3	36,600	△5.3	20,800	△50.2	116.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2027年3月期 1Q	191,300,000株	2026年3月期	191,300,000株
② 期末自己株式数	2027年3月期 1Q	15,886,528株	2026年3月期	9,582,018株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2027年3月期 1Q	178,807,346株	2026年3月期 1Q	181,809,421株

(注) 期末自己株式数および期中平均株式数の算定上控除する自己株式には、役員報酬BIP信託口が保有する当社株式を含めております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当社グループでは、2023年5月に発表した2032年度までの中長期的な事業戦略および財務・資本戦略「アルフレッサグループ中長期ビジョン」に掲げた目標達成に向けて、2025年5月に発表した「25-27 中期経営計画 Vision2032 Stage2 ～総合力で未来を切り拓く～(以下「25-27中計」という。)に掲げた以下のグループ経営方針に取り組んでおります。

- ・TSCS^{※1}進化拡大のためのグループ総合力発揮
- ・成長事業・新規事業への戦略的投資
- ・基盤事業のさらなる競争力強化
- ・コストコントロールの徹底
- ・サステナビリティ経営の推進

2026年5月、当社は経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の一環として、資本効率向上および株主還元の充実に目的に、149億99百万円の自己株式取得を行いました。

2026年5月、当社は永島ホールディングス株式会社(本社：東京都千代田区)の完全子会社で、耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の医療機器メーカーである永島医科器械株式会社(本社：東京都文京区)の全株式を取得する株式譲渡契約を締結いたしました。同社の製品開発力および専門領域における知見は、当社グループの医療機器分野における製造・開発機能の強化や自社製品ラインアップの拡充および医療用医薬品等卸売事業との連携による診療所等での販売機会の拡大につながるものとして本契約を締結したものであり、当社グループは、成長領域と位置付けるメディカル品^{※2}においても、TSCSの基盤を固めて一層の競争力強化を図ってまいります。

また、2026年6月、当社はかねてより資本業務提携契約を締結し、再生医療等製品の製造、流通に関する戦略的な業務提携の可能性を検討していた東京慈恵会医科大学発の研究開発型ベンチャー企業である株式会社ReeNT(本社：東京都港区)との間で、新たに再生医療等製品の実用化に向けた資本業務提携契約を締結し、同社に対する追加出資を行いました。当社グループは、同社が開発する自家鼻腔粘膜上皮細胞シートの日本国内での実用化を目指し、再生医療TSCSを構成するCRO^{※3}、製造、流通等の機能を活用した支援を検討してまいります。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高7,889億60百万円(前年同期比4.1%増)、営業利益55億96百万円(同19.6%減)、経常利益60億88百万円(同20.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益24億76百万円(同50.5%減)となりました。

※1 TSCS(トータルサプライチェーンサービス)：当社グループ全体で保有する様々な機能を有機的に一体活用することで、シームレスなサプライチェーンを確立し、医薬品等の導入・開発、製造から、物流・販売、市販後調査・ラストワンマイルまでをグループ一体となって提供すること

※2 メディカル品：診断薬、医療機器・材料、栄養食品等

※3 CRO(Contract Research Organization)：製薬企業や研究機関が行う臨床試験に関する業務や、医薬品や医療機器が販売された後に行われる品質、有効性および安全性の確保を図るための調査(PMS: Post Marketing Surveillance)等、一連の業務を支援する専門機関

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

① 医療用医薬品等卸売事業

医療用医薬品等卸売事業におきましては、「TSCS実現に向けた事業機会の拡大」を目指し、「25-27中計」の重点施策として掲げた「MS力の最大化」「全国ネットワークの強化」「ソリューション事業の推進による収益基盤の構築」「ステークホルダーが求めるロジスティクス体制構築」「グループ一体となった人的資本の戦略強化」に取り組んでおります。

特に、当社グループでは、2026年3月に改訂された「医療用医薬品の流通改善に向けて流通関係者が遵守すべきガイドライン」(流通改善ガイドライン)を遵守し、医薬品特有の取引慣行や過度な薬価差、薬価差の偏在の是正を図り、適切な流通取引が行われるよう努めております。

2026年6月、連結子会社のティーエスアルフレッサ株式会社(本社：広島市西区)と同社の完全子会社で医療機器専門商社である株式会社ミヤノメディックス(本社：広島県福山市)は、ティーエスアルフレッサ株式会社を存続会社とする合併契約を締結いたしました。地域医療への提供価値をより一層高めるべく、株式会社ミヤノメディックスが有する高度管理医療機器や動物用医療機器等の幅広く専門性の高い製品と専門的なノウハウを活かしたサービスを、中国地方全域の医療機関や動物病院に提供することを目指してまいります。

当セグメントの当第1四半期連結累計期間の業績は、一部の2型糖尿病治療薬やスペシャリティ医薬品等の販売増による増収の一方で、2026年4月に実施された薬価改定によるマイナス影響および人件費を含む物流費等の増加により、売上高7,098億3百万円(前年同期比4.6%増)、営業利益66億22百万円(同0.2%減)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高58億79百万円(同3.7%増)を含んでおります。

② セルフメディケーション卸売事業

セルフメディケーション卸売事業におきましては、連結子会社のアルフレッサ ヘルスケア株式会社(本社：東京都中央区)が、「『健康』×つなぐ×しあわせ」をテーマに、「25-27中計」の重点施策として掲げた「外部環境の変動に強い販売戦略の展開」「自社主体的な新たなソリューションの展開」に取り組んでおります。

当セグメントの当第1四半期連結累計期間の業績は、大手ドラッグストア再編の影響等による厳しい市場環境のなか、コストコントロールに注力したものの物流費等の上昇の影響により、売上高661億71百万円(前年同期比1.1%減)、営業利益5億37百万円(同40.4%減)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高1億27百万円(同19.1%増)を含んでおります。

③ 医薬品等製造事業

医薬品等製造事業におきましては、「事業ポートフォリオの再構築による安定的な経営基盤の確立」を目指し、「25-27中計」の重点施策として掲げた「利益率・効率性のさらなる向上」「受託製造拡大と製品パイプライン拡充」「API(原薬)製造部門の新規事業開発」に取り組んでおります。

2026年4月、連結子会社のアルフレッサ ファーマ株式会社(本社：大阪市中央区)群馬工場において、かねてより建設を進めていた新たな医薬品製造棟を稼働いたしました。低分子医薬品の生産体制の強化に加え、高薬理活性製剤^{※4}の受託製造や無菌製剤^{※5}の検査・包装・試験受託への本格参入を実現します。これにより、当社グループのTSCSにおける開発から製造までの機能の進化と拡大を図り、多様なモダリティの医薬品を、それらを必要とされている医療機関や患者様に「安心」「安全」「誠実」にお届けできる体制をより強固にしております。

当セグメントの当第1四半期連結累計期間の業績は、薬価改定のマイナス影響に加え、新薬開発や新設製造棟にかかる減価償却負担および原薬製造の売上減少等に対し、受託製造の売上伸長および販管費抑制に取り組みましたが、売上高119億57百万円(前年同期比5.3%減)、営業損失6億18百万円(前年同期は営業損失60百万円)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高29億80百万円(前年同期比13.6%減)を含んでおります。

※4 高薬理活性製剤：少量で人体に強い薬効を与える成分を含み、取扱いや製造に安全確保のための特別な設備や手順が必要とされる医薬品

※5 無菌製剤：生育可能な微生物が存在しない状態であることが保証された医薬品。例えば、注射剤として用いられるバイアル製剤やアンプル製剤、シリンジ製剤など

④ 調剤薬局等事業

調剤薬局等事業におきましては、連結子会社のアポクリート株式会社(本社：東京都豊島区)が、「地域に求められる『かかりつけ薬局』を目指す」をテーマに、「25-27中計」の重点施策として掲げた「対患者様業務の充実・処方箋確保」「門前医療機関以外からの処方箋獲得強化」「新たな薬局機能の拡充」「介護事業への参入」に取り組んでおります。

当セグメントの当第1四半期連結累計期間の業績は、調剤技術料獲得増や2026年4月に実施した同社の完全子会社で非連結子会社の有限会社会営(本社：埼玉県ふじみ野市)を吸収合併したことにより増収であった一方で、薬価改定によるマイナス影響や仕入原価上昇および人件費増加の影響等により、売上高94億36百万円(前年同期比3.6%増)、営業損失4億98百万円(前年同期は営業損失4億40百万円)となりました。

⑤ その他(事業)

当第1四半期連結会計期間の期首より、CRO事業を営む当社の完全子会社であるArkMS株式会社(本社：東京都豊島区)を新たに連結子会社といたしました。

ArkMS株式会社では、CROソリューション拡張・体制強化、TSCS連携強化、Ark Platform(スペシャリティ医薬品等の限定流通にかかる当社グループ内のデータ収集および利活用機能を担うシステム)の開発などに取り組むとともにAIを最大限に活用して生産性を上げ、経営基盤の確立に向けた取り組みを進めております。

また、再生医療関連事業を営む連結子会社のセルリソーシズ株式会社(本社：東京都千代田区)では、マスターセルの製造と保管、CMO^{※6}・CDMO^{※7}事業の開発を重点的に進め、各案件を早期にローンチすべく体制整備に取り組んでおります。

その他(事業)の当第1四半期連結累計期間の業績は、ArkMS株式会社の新規連結化および再生医療関連事業における案件受注に向けた人件費や研究開発費等の先行投資により、売上高6億14百万円(前年同期は一百万円)、営業損失3億74百万円(前年同期は営業損失2億79百万円)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高35百万円(前年同期は一百万円)を含んでおります。

※6 CMO(Contract Manufacturing Organization)：製薬企業などからの医薬品製造の受託・代行

※7 CDMO(Contract Development and Manufacturing Organization)：医薬品の製造工程の開発から、治験薬や商用製造までを受託するサービス

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

① 資産の部

資産は、前連結会計年度末と比較して26億87百万円増加し、1兆5,097億4百万円となりました。

流動資産は、66億35百万円増加し、1兆1,659億50百万円となりました。これは主として、「受取手形及び売掛金」が160億4百万円増加および「有価証券」が137億97百万円増加した一方で、「現金及び預金」が147億96百万円減少および未収入金等の「その他」が85億75百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、39億47百万円減少し、3,437億53百万円となりました。これは主として、新規連結の影響により「のれん」が14億60百万円増加および繰延税金資産等の投資その他の資産の「その他」が22億92百万円増加した一方で、新規連結の影響および保有株式の時価下落等に伴い「投資有価証券」が70億89百万円減少したことによるものであります。

② 負債の部

負債は、前連結会計年度末と比較して242億62百万円増加し、1兆233億76百万円となりました。

流動負債は、257億48百万円増加し、9,642億22百万円となりました。これは主として、「支払手形及び買掛金」が321億49百万円増加および賞与引当金が14億1百万円増加した一方で、未払法人税等が67億6百万円減少したことによるものであります。

固定負債は、14億85百万円減少し、591億53百万円となりました。これは主として、保有株式の時価下落等に伴い繰延税金負債等の「その他」が15億92百万円減少したことによるものであります。

③ 純資産の部

純資産は、前連結会計年度末と比較して215億74百万円減少し、4,863億28百万円となりました。これは主として、配当金の支払い等により「利益剰余金」が50億90百万円減少、株主還元の一環として自己株式を取得したこと等に伴い「自己株式」が149億92百万円増加および保有株式の時価下落等に伴い「その他有価証券評価差額金」が15億42百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間における市場の動向および当社グループの業績は概ね計画通り推移しており、本年5月15日に公表いたしました業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	193,066	178,270
受取手形及び売掛金	682,708	698,712
有価証券	-	13,797
商品及び製品	161,895	161,771
仕掛品	2,280	2,589
原材料及び貯蔵品	8,683	8,702
その他	111,007	102,432
貸倒引当金	△327	△324
流動資産合計	1,159,314	1,165,950
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	89,211	90,371
土地	71,987	72,111
その他（純額）	40,410	38,529
有形固定資産合計	201,609	201,013
無形固定資産		
のれん	1,000	2,460
その他	12,127	12,033
無形固定資産合計	13,127	14,494
投資その他の資産		
投資有価証券	106,363	99,274
その他	29,207	31,500
貸倒引当金	△2,606	△2,527
投資その他の資産合計	132,964	128,246
固定資産合計	347,701	343,753
資産合計	1,507,016	1,509,704

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	882,025	914,174
未払法人税等	13,066	6,359
賞与引当金	8,376	9,777
役員賞与引当金	326	135
その他	34,679	33,773
流動負債合計	938,474	964,222
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	10,000	10,000
株式給付引当金	126	158
役員株式給付引当金	100	124
退職給付に係る負債	6,007	6,058
その他	24,405	22,812
固定負債合計	60,639	59,153
負債合計	999,113	1,023,376
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,454	18,454
資本剰余金	31,749	31,749
利益剰余金	427,968	422,877
自己株式	△21,550	△36,543
株主資本合計	456,621	436,538
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	48,939	47,396
繰延ヘッジ損益	0	2
土地再評価差額金	△3,362	△3,362
為替換算調整勘定	529	606
退職給付に係る調整累計額	4,628	4,453
その他の包括利益累計額合計	50,736	49,096
非支配株主持分	545	692
純資産合計	507,903	486,328
負債純資産合計	1,507,016	1,509,704

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	758,118	788,960
売上原価	706,279	736,195
売上総利益	51,838	52,765
販売費及び一般管理費	44,873	47,168
営業利益	6,964	5,596
営業外収益		
受取利息	37	64
受取配当金	511	394
不動産賃貸料	119	126
その他	227	165
営業外収益合計	895	751
営業外費用		
支払利息	85	99
支払手数料	0	18
不動産賃貸費用	50	53
その他	68	87
営業外費用合計	204	259
経常利益	7,655	6,088
特別利益		
固定資産売却益	0	36
特別利益合計	0	36
特別損失		
固定資産除却損	36	102
減損損失	0	15
投資有価証券評価損	-	750
抱合せ株式消滅差損	-	151
特別損失合計	37	1,020
税金等調整前四半期純利益	7,618	5,105
法人税、住民税及び事業税	7,008	5,923
法人税等調整額	△4,422	△3,441
法人税等合計	2,585	2,481
四半期純利益	5,032	2,623
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,004	2,476
非支配株主に帰属する四半期純利益	28	147

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,389	△1,542
繰延ヘッジ損益	1	1
為替換算調整勘定	△88	76
退職給付に係る調整額	△1	△175
その他の包括利益合計	△1,477	△1,639
四半期包括利益	3,555	984
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,527	836
非支配株主に係る四半期包括利益	28	147

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

1. 前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	調整額 (注2)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注3)
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメ ディケー ション 卸売事業	医薬品等 製造事業	調剤薬局 等事業	計			
売上高								
外部顧客への売上高	673,060	66,780	9,168	9,108	758,118	—	—	758,118
セグメント間の 内部売上高又は振替高	5,671	106	3,451	—	9,229	—	△9,229	—
計	678,731	66,886	12,620	9,108	767,347	—	△9,229	758,118
セグメント利益又は損失(△)	6,637	901	△60	△440	7,037	△279	205	6,964

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、再生医療関連事業を含んでおります。

(注2) セグメント利益の調整額205百万円には、セグメント間取引消去100百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用105百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注3) セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	調整額 (注2)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注3)
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメ ディケー ション 卸売事業	医薬品等 製造事業	調剤薬局 等事業	計			
売上高								
外部顧客への売上高	703,924	66,044	8,976	9,436	788,381	579	—	788,960
セグメント間の 内部売上高又は振替高	5,879	127	2,980	—	8,987	35	△9,022	—
計	709,803	66,171	11,957	9,436	797,368	614	△9,022	788,960
セグメント利益又は損失(△)	6,622	537	△618	△498	6,042	△374	△71	5,596

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、再生医療関連事業およびCRO事業を含んでおります。

(注2) セグメント利益の調整額△71百万円には、セグメント間取引消去71百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用△142百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注3) セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2026年5月15日開催の取締役会において、会社法第459条第1項および当社定款第42条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議いたしました。主にこのことにより、当第1四半期連結累計期間において自己株式が14,992百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末における自己株式は36,543百万円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)およびのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	3,455百万円	4,023百万円
のれんの償却額	100	147